

ボランティア保険ご案内

ボランティア活動保険

ボランティア活動中に、ボランティア自身がケガをした(傷害事故)、他人にケガをさせてしまった、他人の物を壊してしまった(賠償事故)などの事故を幅広く補償します。

保険プラン	Aプラン	Bプラン	Cプラン
基本プラン年間保険料	250円	300円	500円
天災プラン年間保険料(基本プラン年間保険料を含む)	400円	500円	800円

保険金の種類	補償概要(事故発生日から180日以内)	保険金額(補償の金額が改定となりました)		
		Aプラン	Bプラン	Cプラン
傷害事故(注1)	死亡保険金	死亡・後遺障害保険金額の全額をお支払いします。(注2)		
	後遺障害保険金	620万円	840万円	1,230万円
	入院保険金(1日につき)	4,400円	5,400円	8,400円
	通院保険金(1日につき)	2,800円	3,200円	5,800円
手術保険金	入院中に受けた手術は入院保険金日額×10、入院中以外の手術は入院保険金日額×5の額をお支払いします。			
賠償責任	対人・対物共通	第三者の身体または財物に損害を与え、または名誉毀損やプライバシーの侵害により法律上の損害賠償責任を負った場合に、お支払いします。		
	人格権侵害			

(注1) 傷害事故の保険金は、健康保険・生命保険・加害者からの賠償金などは関係なくお支払いします。事故発生日を含めて180日以内の死亡・後遺障害・入院・通院・手術について保険金をお支払いします。
 (注2) 既にお支払いした後遺障害保険金がある場合は、死亡・後遺障害保険金額から既にお支払いした金額を控除した残額をお支払いします。
 (注3) 保険期間(保険のご契約期間)を通じ合算して死亡・後遺障害保険金額が限度となります。
 (注4) 平常の生活またはお仕事に支障がない程度に治ったとき以降の通院に対しては、保険金をお支払いできません。
 ※ 特定感染症(1類、2類、3類)により発病の日から180日以内に死亡した場合、葬祭費用として300万円を限度に葬祭費用の全額をお支払いします。

天災プランとは…

地震もしくは噴火、津波及びこれらにともなう生じた事故等の死亡・後遺障害・ケガも補償します。以下の特約が付帯され、補償内容がグレードアップしますのでおすすめです。
 (天災危険補償特約・第三者加害行為等による傷害保険金倍額支払特約)



ボランティア行事用保険

社会福祉協議会及び民間のボランティア活動推進団体が主催者となり、ボランティア活動に関わる行事を行う際の、主催者および参加者のケガ(傷害事故)と、主催者が賠償責任を負った事故を補償します。

行事区分	日帰				宿泊					
	1日1名につき				1名につき(保険料が改定となりました)					
	A行事*	B行事*	C行事*	現地集合行事(名称変更・A行事のみ)	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日	6泊7日
保険料	30円	136円	268円	30円	231円	284円	290円	343円	349円	355円

保険金の種類	補償概要(事故発生日から180日以内)	保険金額(補償の金額)		
			死亡保険金	死亡・後遺障害保険金額の全額をお支払いします。(注2)
後遺障害保険金	後遺障害の程度に応じて、死亡・後遺障害保険金額の4~100%をお支払いします。(注2)	370万円(限度額)		
入院保険金(1日につき)	入院日数1日につき、入院保険金日額をお支払いします。	3,500円		
手術保険金	入院中に受けた手術は入院保険金日額×10、入院中以外の手術は入院保険金日額×5の額をお支払いします。			
通院保険金(1日につき)	通院日数1日につき(90日を限度として)通院保険金日額をお支払いします。	2,200円		
賠償責任	対人	1名1事故	第三者の身体・生命を害し法律上の損害賠償責任を負った場合に、保険金をお支払いします。(多数の第三者に事故が発生した場合は、1事故を適用します。)(注3)	2億円(限度額)
	対物	1事故	第三者の財物に損害を与え、法律上の損害賠償責任を負った場合に、保険金をお支払いします。(注3)	1,000万円(限度額)

「ケガ」とは急激かつ偶然な外来の事故によって身体に被った傷害をいいます。なお傷害には細菌性・ウイルス性食中毒を含みます。
 ・日帰り行事ABCにおいて、事故発生時に名簿または参加証明書を出せない場合は、保険金が支払われない場合があります。
 ・現地集合行事(名称変更)。詳細はパンフレットをご覧ください。

※ A・B・Cの行事区分は内容により異なります。
 (注1) 傷害事故の保険金は、健康保険・労災保険・生命保険・加害者からの賠償金などは関係なくお支払いします。事故発生日を含めて180日以内の死亡・後遺障害・入院・通院・手術について保険金をお支払いします。
 (注2) 保険期間を通じ合算して死亡・後遺障害保険金額が限度となります。
 (注3) 免責金額(自己負担額)は対人・対物事故ともにゼロとします。

● 社会福祉法人向け役員賠償責任保険及び福祉ふれあい活動総合補償等の「福祉に関する保険」も取り扱っております。詳しくは愛知県社会福祉協議会ホームページ「福祉の保険」をご覧ください。

※お申し込み、ご照会は下記の市区町村社会福祉協議会まで

〒461-0011 名古屋市東区白壁1丁目50番地
愛知県社会福祉協議会 総務部 TEL 052-212-5500 FAX 052-212-5501
 取扱代理店 〒460-0008 名古屋市中区栄2-2-31 ニュープラスビル7階
株式会社ニュータス(愛知県社会福祉協議会 指定代理店) TEL 0120-258-517 FAX 052-204-8988

令和2年度

「子どもの居場所づくり応援事業」

実施報告書 (子ども食堂取組事例集)





もくじ

はじめに 1

▶ 子ども食堂の取組事例集

1. ほんわか食堂（名古屋市南区、港区）..... 2

2. 日進絆子ども食堂（日進市）..... 4

3. 豊明市社会福祉協議会（豊明市）..... 6

4. おっとりくん食堂（新城市）..... 8

5. 豊田市「子ども食堂」（豊田市全体）..... 10

6. おいでん家（岡崎市）..... 12

7. おかざき子ども食堂・みんなの食堂連絡協議会“ワークル”（岡崎市）..... 14

▶ 「子どもの居場所づくり応援事業」実施報告書 15

参考資料

●子どもの居場所づくり推進会議要領 20

●子どもの居場所づくり推進会議委員名簿 21



はじめに

昨年度に引き続き、今年度もこうして「子どもの居場所づくり応援事業」報告書をまとめることができました。

事業の中核となる「子どもの居場所づくり推進会議」は、新型コロナウイルス感染症の影響のなかで、構成員が例年以上に多忙ななか、10月・2月の両会議はもとより、県内3地区（尾張・知多・三河）における検討部会および研修会を10～12月にかけて今年度も行うことができました。

新型コロナウイルスによって、県内の子ども食堂の急増がストップし、その実施も多くのところで中止を余儀なくされました。しかし、正しい情報が伝わるようになるなかで、本報告書の事例のように、子ども食堂スタッフはお弁当を調理・配布したり、「フードパントリー」として食材等を無償提供したりする新たな取組も生み出しました。こうして、子ども食堂を楽しみにしていた子どもたちや親子とつながり続けるだけでなく、「フードパントリー」によって、子ども食堂に来られないような新たなニーズも各地域で発掘することができました。

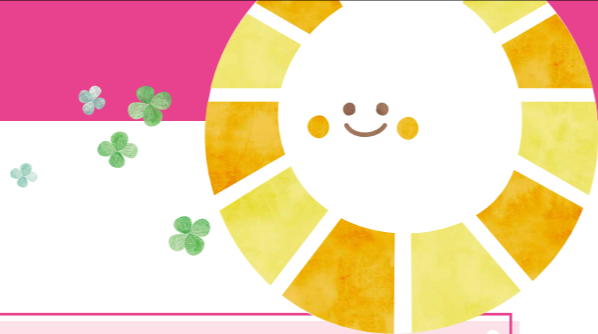
会議では、こうした県内各地域の子ども食堂を応援すべく、「子どもの居場所応援プラザ」を中核に「寄付食材等配送システム」の構築をめざして議論を続けてきました。

新型コロナ禍において、子ども食堂の役割は衰えるどころか、ますます期待されるどころです。本報告書の事例も創造性に富んでいます。これから地域で子ども食堂を広げていくために、本報告書が「子ども食堂」を運営される方、「子ども食堂」の活動を支える方の一助として、ご活用いただければ幸いです。

令和3年3月

子どもの居場所づくり推進会議
委員長 中村強士

ほんわか食堂 | 名古屋市南区、港区



- **設立年月日**
2016年12月27日
- **活動場所**
名南病院 [名古屋市南区]
東築地地区防災センター [名古屋市港区(2017.8~)]
わいわい広場 [名古屋市南区(2021.10.27~)]
- **スタッフ人数**
30名前後
- **開催日時**
・子ども食堂
月1~2回 第3土曜日他 11:30~14:00
・学習支援(小・中学生)
月2回 第2・4火曜日 16:00~18:30
- **参加費**
・子ども食堂 0~18歳 無料
保護者 ¥300
・学習支援 無料

活動のきっかけ

今まで、名南健康友の会と共に高齢者のたまり場やお食事サロン・子育てサロンなどを立ち上げてきましたが、地域の子もたちを病院や地域の中で見て、包丁やまな板が無い家庭で生活していたり、生活状況が厳しく食事が満足に摂れていなかったり、食事がお菓子だったり、たくさんの困難事例があることが分かりました。一方で、その家庭も外見上は経済的に困難を抱えているようには見えず、周囲の理解を得られないために支援を受けられない現状に対して、何かしなくちゃ、何が出来るかを考えた末に、子ども版お食事サロン、つまり『子ども食堂』を開設するに至りました。

場所の確保

職場の病院がある地域は、南区・港区の境で困窮家庭が多く居住する地域です。(2016年12月当時南区は名古屋市の生活保護率第1位)一番近くのコミュニティセンターを借りようとしたのですが、子ども食堂に対する理解が得られず、部屋が空いているにも関わらず貸してもらえませんでした。しかし、幸いにも病院の講堂を借りることができました。ただ、外部団体が使っても良い厨房がないので、医療法人名南会が所有する近くの施設内の厨房を借りて調理をすることにしました。

運営費の確保

病院の職員からのカンパ・名古屋市・市や区社協の助成金やカンパ活動で資金を集め、備品や食材の購入をしています。フードパントリーでは、職員のフードドライブも活用しています。

参加者集め(告知方法)

南区では、小学校に申し入れをして、下校時に門前でチラシを配布しています。町内の回覧板にも入れてもらいました。社協や、児童館や、病院の小児科にもチラシを置いてもらっています。

港区では小学校に申し入れた際に、教頭先生から「各

教室に貼りましょう」と言ってくださり、毎回教室に貼っていただきました。学区の民生委員さんやスクールソーシャルワーカーさんも積極的にチラシを配布や声掛けをしていただき、町内の掲示板にも掲示しています。

フードパントリーになってからは、スクールソーシャルワーカーさんや区社協にもチラシ配布のご協力をいただき、区社協事務所や区役所などでも、相談に来られた困窮家庭にチラシをお渡ししてもらっています。

活動内容(～2020年2月)

2ヶ所のほんわか食堂(ほんわか食堂・ほんわか食堂 inみなと)では、食事の提供前に、子どもたちと一緒に簡単な調理をしています。毎年の開設記念日には、ケーキ屋さんから10台のスポンジと生クリームを寄付していただき、フルーツもカットして、皆でデコレーションをしました。子どもたちの「やりたい!」を大切に運営しています。他にも食事をするだけではなく、流しそうめん体験や、大道芸人のパフォーマンスを見たり、絵本の読み聞かせや紙芝居など、遊びも行っていました。

活動内容(2020年3月～)

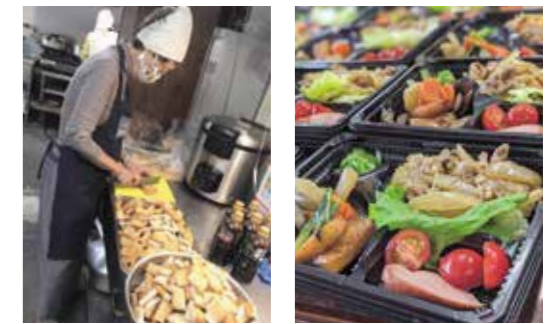
ところが、2020年の2月の開催後、新型コロナウイルス感染拡大という想定外の事態に見舞われ、3月の開催は出来なくなりました。学校も休校となり、子ども

食堂の再開はいつになるのか?と不安ばかりでした。そんな時、東築地学区の民児協の会長さんから、「こんな時だからこそ子ども食堂をやって欲しい。会場は用意します。」と声をかけていただきました。食事の提供はできないけど、配ることなら出来る!皆の顔も見られる!と思い、フードパントリーの開催を決断しました。初めての開催日には、野菜やお菓子・レトルト食品・飲み物に加えて、すぐ食べられるように「炊き込みご飯」を作り、出来立てを持ち帰ってもらいました。密をさけて、無事に100人分配布できました。4月に入り、この食材の支援がいつまで続くのだろう…と不安になり、改めて今後のフードパントリーのやり方を考えてみました。その結果、コロナ禍で本当に困っている方に届けたい!という思いから、これまでの不特定多数への食の提供から、困っている人に届ける活動に変更しました。

改めて見えてきたこと

運営方針を変えて、最初は、ほんわか食堂に参加してくれた方の名簿を元に電話をかけて、困りごとの聞き取りを行いました。

ほんわか食堂に来ているときは、各家庭の事情はあまり把握できていませんでしたが、電話で保護者の方と話をして、初めてシングル家庭だとか、非正規雇用で仕事が無くなって困っている事など、改めて困難な状況にある家庭がたくさんあることがわかりました。また活動を続けているうちに、区社協や区役所から困窮家庭の紹介があったり、各家庭同士、民生委員さんやスクールソーシャルワーカーさんのつながりで、これまで、ほんわか食堂とつながりの無かった困難を抱えた家庭にも繋がりました。大きなフードパントリーは、月に1回ですが、困っている家庭には可能な限り、随時食材などをお渡ししています。現在は、毎月のパントリーで、スタッ



フの方々からの「子ども食堂らしさも出したいから、食材を取りに来た人たちに食事を提供できないか?」との意見を活かして、パントリーの時に食事を提供したり、「手作り弁当」200食以上を各家庭に人数分お渡ししています。

嬉しかったエピソード

この活動を続けていく中で、困難な事例にたくさん出会いますが、本当にうれしいこともありました。

①市内の少し離れたところから、毎回パントリーに参加する6人家族。いつもとても助かっていると。お返しがしたいが何もできないので、次回からお手伝いがしたいと言われスタッフとしても参加してくれました。

②スクールソーシャルワーカーさんからの紹介で、なかなかパントリーに参加できなかったシングルマザー。子どもさんは不登校でした。何度か声を掛け続けて、ママがようやく8月にパントリーに参加してくれた。その後、子どもさんも毎日ではないけれども、学校の相談室に来られるようになりました。

その他、随時食材をお渡ししているときに、「うれしい」と泣き出す方もいました。

今後に向けて

今後、子ども食堂を、みんなで楽しくわいわいと形を変えながらもやれる日を心待ちにしながら、続けていきたいと考えています。また、ほんわか食堂を開催できるようにもなっても、フードパントリーは継続していかなければいけないと思っています。



日進絆子ども食堂 | 日進市



- 設立年月日
2016年1月
- 活動場所
にぎわい交流館 1Fサロン
- スタッフ人数
子ども食堂開催時ボランティア25名~30名
(一般15名 大学生15名の登録)
- 開催日時
毎月第2日曜日 10:00~15:00
- 参加費
18歳まで 無料
大人 500円(子ども食堂継続のため)

活動のきっかけ 「全ての子ども笑顔の為に」

2014年5月NHKクローズアップ現在を視聴して、13.5%の子どもが相対的貧困、つまり、7人に1人が貧困である事を知り、従来は定年退職のホロー活動を1998年定年退職後に「いきいき塾NPO絆」を設立し、自宅を開放して夢工房絆の100円コーヒーで、たまり場サロンを開設していました。しかし、地域の宝の子どもの状況を考えたときに、仲間と相談し、行政を巻き込んだ子ども食堂の設立を決意しました。

行政と協働の絆子ども食堂トライアル

当年は新年度予算も執行済みのため、翌年2015年2月に日進市自治活動推進補助金事業に応募しました。そして、日進絆子ども食堂トライアルで予算をいただき、香久山福祉会館で子ども食堂講演会並びに絆子ども食堂を開催、100名の定員に対して100名以上の方の参加がありました。

トライアルで分かったことは、地域差があるけど、アンケートから、孤食や、一人親家庭の多さに驚き、子ども食堂の必要性を仲間と共有しました。

日進絆子ども食堂開設

子ども食堂開設のためのスタッフ、並びに運営費、食材の寄付は講演会でご参加の100名の中より、ボラン

ティアスタッフ15名、食材の寄付者10名ほどでスタート。子どもの食育の講演を聴き多くの賛同者協力していただき、スタートできました。

ただ開催場所の選定で広く募集をしましたが、候補の紹介はあれども、なかなか決まらず、使用場所の選定が一番時間かかりました。行政と相談し、日進市の運営のにぎわい交流館の使用を認められて、翌年2016年1月より開催となりました。

子どもの居場所としての「子ども食堂」

どんな子どもでも、おなかいっぱい食べられる場所、安心して過ごせる場所を提供し、一人で食事をしている子どもたち、そして、一人親家庭の親子、一人住まいの高齢者にも気軽に来ていただけるプラットホームになればとの思いを込めて、日進絆子ども食堂は、始まりました。

コロナ禍の中の子ども食堂 「フードパントリーの転換」

新型コロナ感染防止のため4~5月の緊急事態宣言の中で、学校の一斉休校で給食はなくなりました。親は仕事にいけなかったり勤務を減らされたり、あるいはシングルマザーは「子どものために会社を休んでいいと言われたけれど、時給のため休めば生活が出来なくなる」という状況にさらされています。この様な一番子どもに必要な時に、子ども食堂は人を集めた活動が出来なくなり、経済的困難を抱える子どもと家族に暗い影を落としています。

急遽、日進絆子ども食堂は、2020年3月8日(日)第一回のフードパントリー(食材の無料配布)に切り替え実施し、30家族90食を配布しています。

今後、子ども食堂の再開後もフードパントリーの必要性を強く感じています。毎月第二日曜日開催の子ども食堂に、来られない子どもたちや、一人親家庭に継続的に届ける必要を感じています。

新たな取組 コンビニとの連携

フードパントリー継続には、安定的に食材を供給することが必要になります。そのためには、フードドライブ受け付け窓口が必要と思われます。そこで24時間営業のコンビニと連携できないかと考え、2020年12月6日ファミリーマート日進三本木町店のご協力をいただき、トライアルとして実施し、多くの食材をいただき、30家族90食を配布することができました。一日も早くコロナの早期終息と、子ども食堂の居場所としての開催を願っています。



にぎわい交流館調理室



朝礼と手の検査



食材を持ち帰る家族



寄附食材等



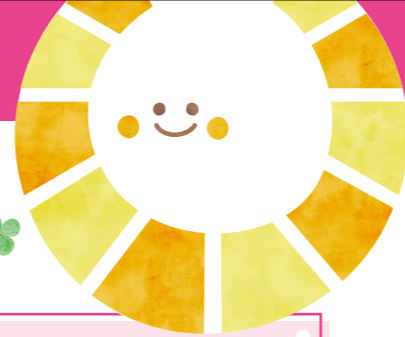
子ども食堂講演会(香久山福祉会館)



第1回トライアル子ども食堂開催(香久山福祉会館)

豊明市社会福祉協議会

豊明市



① にこにこ食堂

- 設立年月日
平成30年6月
- 活動場所
豊明団地自治センター
- スタッフ人数
ボランティア約15名
- 開催日時
月1回程度 平日 17:00~19:00
- 参加費
子ども(高校生まで) 無料
保護者 300円

② 走る子ども食堂<第1弾~第3弾>

- 実施期間
令和2年3月~令和2年5月
- 活動場所
豊明市内の子どもたちが行きやすい場所、延べ47カ所
- スタッフ人数
延べ195人
- 開催日時
新型コロナウイルスの感染拡大により学校が休業した期間等の平日の昼食、おやつタイム
- 参加費
子ども(高校生まで) 無料

③ なかよし子ども食堂

- 設立年月日
令和2年9月
- 活動場所
豊明市総合福祉会館
- スタッフ人数
ボランティア約15名
- 開催日時
月1回程度 土曜日 11:30~13:15
- 参加費
子ども(高校生まで) 無料
保護者 300円

活動のきっかけ

地域での子どもの居場所をつくり、地域の方との交流を増やし、地域コミュニティの強化を図ること、また子どもの孤食の減少、小さい子どもを育てる保護者同士の交流を目的として始めました。



にこにこ食堂



走る子ども食堂

場所・スタッフ・運営費の確保・周知

「にこにこ食堂」は豊明団地自治センターを会場にしました。とても大きな団地で、子どもたちが歩いて行ける安心安全な場所が団地の中央にあり、団地の方にご協力をいただき、場所を貸していただきました。スタッフはボランティアの方々と、高校生から80代まで幅広い世代の方々が活動に参加されました。運営費は、保護者の参加費300円、ご寄付、社会福祉協議会の事業費を活用しました。周知はチラシの掲載を団地の掲示板や小学校にご協力をいただき、またスクールソーシャルワーカーと連携をし、子どもたちに情報が伝わるように工夫をしました。また外国籍の子どもたちが多い地域のため、ポルトガル語に訳してくれるボランティアのご協力で、ポルトガル語のチラシを作成しました。毎回多くの子どもたちが参加してくれ、いつも会場内は賑やかで楽しい雰囲気でした。

「走る子ども食堂」の実施

2年間、「にこにこ食堂」を開催しました。そんな中、新型コロナウイルスの感染が拡大、緊急事態宣言が発令され、学校が休業となりました。これにより、共働き世帯など、昼間子どもだけで過ごさなければならない状況となり、子どもの食事などの世話や仕事のことなどで不安を抱える家庭の深刻な問題がみえてきました。そこで、社会福祉協議会のキッチンカーを活用して昼食を提供する「走る子ども食堂」を実施しました。子どもたちが安心して歩いて行ける場所での開催が必要と考え、市内小学校や児童館の駐車場を会場としてご協力をいただきました。活動するボランティアは、活動に対して、



なかよし子ども食堂

ご家族の理解を得た方々を中心に、1日300食用意し、子どもたちに配布しました。「走る子ども食堂」は第1弾から第3弾まで実施をしました。開催日数延べ19日間、会場数延べ47会場、食数延べ5207食、活動ボランティア延べ195名でした。「走る子ども食堂」を実施するにあたり、多くの企業・市民の方からご寄付をいただき、活用させていただきました。自粛生活を頑張る子どもたちや保護者の方々が、一瞬でもホッとできるひと時をキッチンカーで届けることができましたと思っています。また、ボランティアをはじめ、活動した方の多くが、つながりつづけることの大切さを感じる活動でした。

学校再開から現在

学校の休業が終わり、子どもたちの元気な声が街に戻ってきました。子どもたちの居場所づくりのため、コロナ禍でもつながりつづけるために知恵を出し合い、令和2年9月から「なかよし子ども食堂」をオープンしました。会場はテラス席にし、感染予防対策を充分に行いながら、月1回開催を続けています。子どもたちも感染予防対策に協力的です。世の中がどんな情勢になろうとも、子どもが一人でも安心して行くことができる子どもの居場所として「子ども食堂」が必要だと、活動をしながら常々感じています。

今後について

豊明市内では、まだまだ子どもたちが一人で歩いて行ける場所に「子ども食堂」がありません。地域の方たちや企業の方たちとともに、子どもの居場所としての「子ども食堂」のオープンを目標に、活動を続けていきたいと思っています。



おっとりくん食堂 | 新城市



- 設立年月日
2018年7月21日
- 活動場所
新城市社会福祉協議会
八楽児童寮 幸の家 他
- スタッフ人数
約8名
- 開催日時
基本毎月1回
第3土曜日/日曜日 11:00~13:00
- 参加費
無料

活動のきっかけ

新城市長がこども食堂をサポートすると Manifesto に掲げた事で、新城市で児童福祉に長年携わっている八楽児童寮として、地域に貢献しようと思った事でした。
おっとりくん食堂の「おっとりくん」とは八楽児童寮のマスコットキャラクターです。



場所の確保

会場を選ぶ際に一番重要視したのは「子どもだけでも来る事ができる場所」でした。
ご家庭の都合で、子どもが行きたくても保護者が行けない・行きたくない事もあると考え、子どもだけでも「いってきます」「いってらっしゃい」と保護者が安心できる場所で開催ができるようにしたいと考えました。
そこで新城市の社会福祉協議会のスペースをお借りする事にしました。普段から子ども達の学習支援を行っており、子どもも来る事に慣れている場所、保護者も安心して送り出せる場所としては最適でした。

もう1か所、八楽児童寮の幸の家で実施しています。幸の家は元々グループホームとして地域で八楽児童寮の子ども達が生活をしている一軒家でした。そのため、地域の方に対して児童養護施設の子供達がどこで生活しているのか、ご紹介する機会にもなると考えて選びました。
活動が広がり、地元企業から場所の提案もありました。

スタッフの確保

施設職員から栄養士とスタッフを常任で配置。地域の更生保護女性会の方の協力を得て、毎月交代でボランティアに来ていただいています。またパンフレットや口コミで知った地域の方も、ボランティアで不定期に参加しています。

運営費の確保

利用料が発生すると行きたくても行けない子どもが出てくると考え、利用料は設定していません。しかし、保険料や広報費、食材費、消耗品費はかかるため、新城市や愛知県の助成金を活用して運営費にあてています。
また、おっとりくん食堂を始めた事で、地域の方から子ども食堂で使ってくださいと食材のご寄付をいただく機会が増え、食材費の削減になっています。

参加者集め

市が紹介してくれた、学習支援教室での児童家族が数組ほぼ毎回参加しています。幸の家で行った際は地域の民生委員の協力を得て、地域の児童が参加し、子ども間で口コミで広がり、一定人数集まってきました。また、パンフレットや公式ラインなどで近隣地域以外からも募集をし、少数ですが参加にいたっています。

活動内容

一緒に食事の準備をしながら楽しく食事をするようにしています。食事の準備を子どもに手伝ってもらう事で、褒められる機会や普段関わりのない人とコミュニケーションをとる機会作りを意識しています。保護者にとっては、少し子どもから離れるレスパイトの時間や、子育てについて相談ができる機会になればと思っています。

今後は学習支援や、保護者への子育て講座を活動の中で行っていけたらと思っています。

コロナ禍で気づいたこと

コロナ禍で月1回開催していた子ども食堂を中止せざるを得ない状況となりました。コロナ禍だからこそ必要な子ども達もいるとは思いますが開催をした事でクラスターが発生する可能性が否定できず、もどかしい思いを感じています。
会場での参加が難しくなった際、配食も検討しましたが実施に至っていません。理由としては、集まっていた参加者の大多数が、食事目的ではなく、地域や職員とのコミュニケーションを目的として参加していたためです。このコロナ禍でさらに人とのつながりを持つ場が少なくなってしまう、ただ食事をするだけでなく、地域に参加するという子ども食堂の在り方を再確認できました。

団体の特徴

当法人は65年以上児童福祉に携わってきた実績があります。培ってきた経験をこども食堂にも生かしていきたいと考えています。
また、児童養護施設が運営する子ども食堂なのでゆくゆくは親に子育て講座を行い、地域の虐待予防へつなげていきたいと考えています。

活動で大切にしていること

食事の提供が目的ではなく、こどもの居場所作りを目的として行っています。
子どもにとって居場所になる事で普段関わらない他者とコミュニケーションを取れる場を作り、自尊心を高め、社会性を養う場にしたいと考えています。
また、子ども食堂をやってみたいという人に向けてモデルになれるような運営をしていきたいと考えています。

今後に向けて

子ども食堂として食事を提供するだけでなく、学習支援や子育て講座といった付加価値をもたせていきたいと考えています。子育てに疲れた時に短時間のレスパイトとして利用していただいたり、子育てを経験してきたボランティアさんにアドバイスをもらう場であったり、子どもだけでなく親にとっても行く価値があると感じる場所にしていきたいと思っています。
福祉施設だからこそできる地域連携を図り、子ども達を地域で支える支援ができるようにしていきたいと思っています。



郷土料理の五平餅を子どもたちと一緒に作りながら食べました



待っている間は、集まった子どもたちが一緒に遊び、同じテーブルについてご飯を食べます

豊田市「子ども食堂」 | 豊田市

- **設立年月日**
2016年11月(豊田市初の子ども食堂)
- **子ども食堂活動数**
22か所
- **目的**
地域の大人と子どもたちが調理や食事を通して交流ができる場
- **活動方法**
調理実習形式、フードパントリー形式

地域からのたくさんの支援に支えられた活動

豊田市の子ども食堂は、子ども食堂の運営に協力したい企業、小売業者、スーパー、地元農家、個人など、多くの地域の協力者からの寄付で支えられています。支援の内容は運営補助やボランティア等をはじめ、食材提供や消耗品・備品等の支援、寄付金、開催場所の提供など様々です。



寄付：善都子ども財団、生活クラブ、フードバンク愛知等



寄付をもとにフードパントリー

地域の協力者との信頼関係を築くために

多くの子ども食堂が地域や企業の協力者に支えられて活動していますが、子ども食堂の活動の理解や信頼を得ていくために、それぞれの子ども食堂が様々な工夫を行っています。地域の協力者との顔が見える関係づくりを行うために、ちらしを持参しながら、あいさつ回りを行うなど地道な理解活動を行うと共に、子どもたちからの感謝の手紙や寄付の内容を写真つきで添えて活動報告を行っている子ども食堂もあります。



お礼の手紙・活動報告～龍の子～

このような地道な理解活動が積み重なり、少しずつ顔が見える関係となり、つながった協力者からまた新たな協力者へとつながっています。

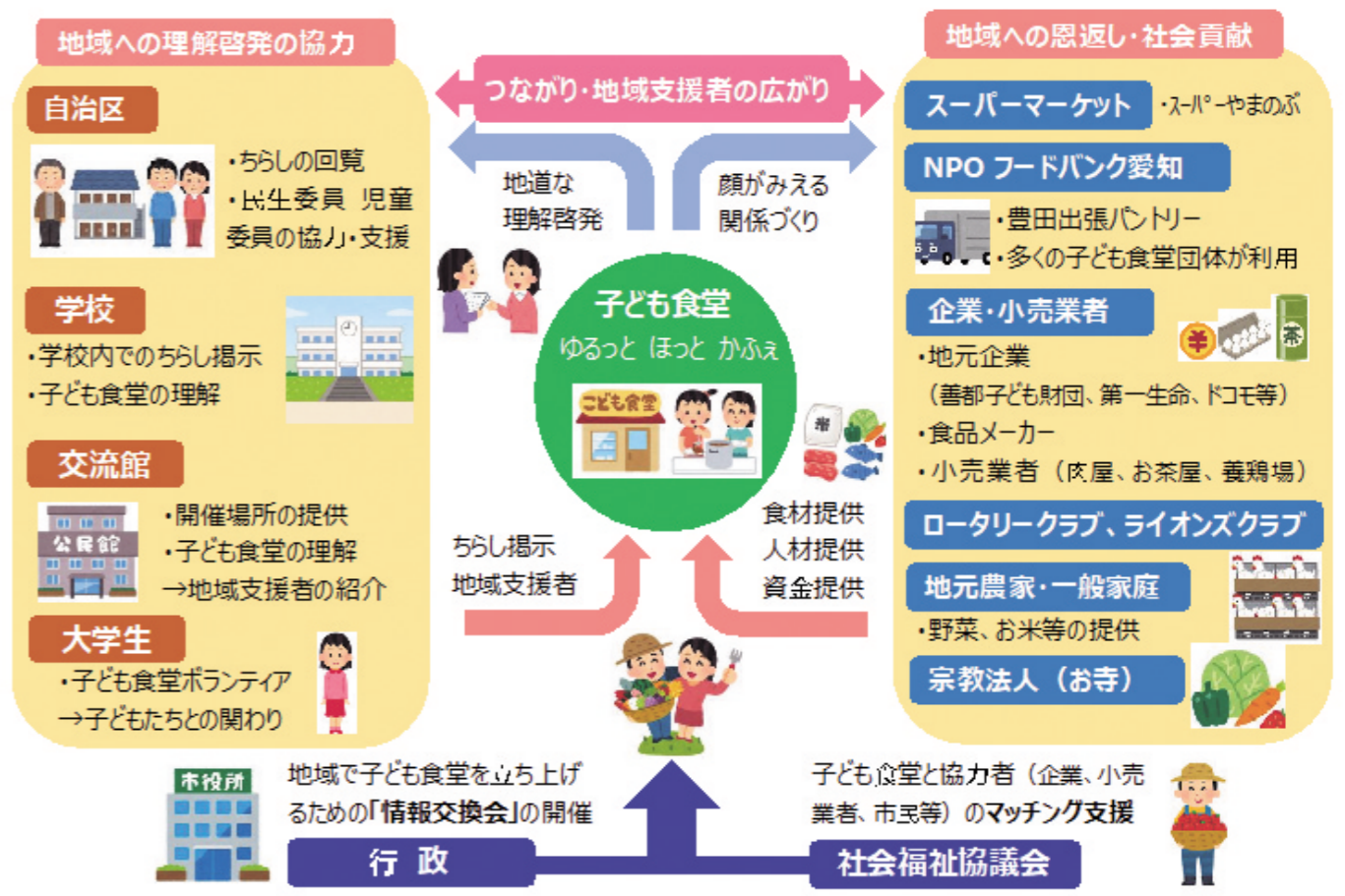
地道な理解活動から多くの支援のつながりへ～子ども食堂『ゆるっとほっとかふえ』～

地域で読み聞かせボランティアや主任児童委員として活動していた中で、さまざまな家庭環境の子どもたちと出会い、地域で顔の見える支援、見守りある居場所を作りたいという思いで子ども食堂を立ち上げました。立ち上げ当時の2017年1月は子ども食堂がほとんどなかったため、活動や目的について理解していただくことに苦労しました。自治区や民生委員児童委員、学校などへ活動の思いや様子を伝えるとともに、交流館等へのちらしの掲示を通じて、地域の方々へ地道に理解を得ていきました。また、市とともに子ども食堂の活動について理解を得るための「情報交換会」を開催したことで、更に地域の方々の理解を得ることにつながりました。地道な理解活動を通じて、交流館職員の紹介により地元農家の野菜の寄付を受けることができました。その協力をきっかけに肉屋や養鶏場など地域の様々なお店からも支援を受けられることになりました。



ゆるっとほっとかふえの活動の様子

【参考】子ども食堂『ゆるっとほっとかふえ』地域の協力者とのつながり



企業によるそれぞれの子ども食堂に合わせた支援～第一生命保険株式会社 豊田支社～

第一生命保険株式会社豊田支社は、全従業員が市内の子ども食堂の状況を知り、それぞれができることを行いたいという思いから、市内に6か所ある各オフィスがその地域にある子ども食堂に対して、必要としている支援を行っています。市内6か所のオフィスで7か所の子ども食堂を支援しており、各子ども食堂の打合せに参加しながら、子ども食堂の要望に応じた支援をしています。



ディズニーグッズ抽選会の様子



ディズニーグッズを貰う子どもたち

オフィス名	「第一生命 豊田支社」による支援活動内容
豊田東	ディズニーグッズ抽選会
豊田北	ディズニーグッズ定期的に提供
豊田南	子ども食堂活動内容に応じて必要物品を従業員が寄付(使わなくなった布等)
西部	毎回、ボランティア2～3名派遣(調理の補助、子どもたちとの交流) 従業員の中で募金を集め、子ども食堂の「のぼり」を寄贈
上豊田	フードパントリーに合わせて、ディズニーグッズの提供
日之出	ディズニーグッズ抽選会、イベント的な内容の時は、お菓子の詰め合わせ提供

おいでん家 | 岡崎市



- **設立年月日**
2017年10月24日
- **子ども食堂開始日**
2018年3月27日
- **活動場所**
岡崎市美合町の空き家
- **スタッフ人数**
約20人
- **開催日時**
① おいでん家(子ども食堂)
毎月 第2・第4火曜 16:00~19:00
- **参加費**
高校生まで 無料
大人は応援代 300円 どなたでも
- **その他活動**
② 夏休みおいでん ③ ほっこりお茶会
④ 出張おいでん キッチン丸 ⑤ ラブ♡フードおいでん

活動のきっかけ (おいでんネットワーク)

2017年9月に岡崎市社会福祉協議会主催の講演会でお話を聞いて感動し、わたしたちもできるかもしれないと思ったことから始めました。

準備のいろいろ お掃除大作戦

ご近所の大家さんのご好意で空き家を貸して頂けることになりました。早速ご近所にもご挨拶に回り、地域の方やボランティアセンターで声をかけていただいた方とで大掃除をしました。(11月の2日間)



大掃除の様子

次にボランティアスタッフ説明会

地域の総代さんのご理解を得て、子ども食堂オープンとスタッフ募集告知を町内回覧に入れていただきました。ボランティアセンターでも情報誌に募集掲載、2回の説明会で多くの方に登録いただきました。市内の大学生も参加してもらっています。

必要な物の調達

空き家で何もなかったため、みなさんから冷蔵庫、机、鍋、食器類、本…多くの品、そしてお浄財を頂戴しました。米や野菜は社協に仲介で市内の農家や産直からいただいています。各種助成金と、物心両面の支援により、活動を継続することができます。いつも感謝しています。

① おいでん家

●さてさて花のオープン!

庭の大きな桜も満開の2018年3月に、第1回子ども食堂を開きました。最初の参加者は20人程度でしたが、子どもの口コミでみるみる参加人数は増え毎回50人ほどの盛況となりました。

子どもがひとりでも来ることができて、大人に見守ら



きれいになった庭

れて安心できる居場所、そしてそこに集う大人たちもほっこりできることを目指しています。

食事の他に、宿題をしたり、自由に遊んで過ごせるようにしています。おいでん家はどなたでも大歓迎です。

② 夏休みおいでん

夏休みのうち、月、水、金、で9日間ほど、朝9時から午後3時まで、「夏休みおいでん」を開催しています。午前中は勉強のみ、午後からは自由、としました。10時半におやつ休憩、12時に軽食(おにぎりなど)2時40分におやつを食べてみんなで掃除をして帰ります。

2019年度は地域包括センターの紹介で、ご近所の高齢者が、囲碁や工作を教えていただいたり、交流の場にもなりました。



作文の指導を受ける子

③ ほっこりお茶会

ご近所の高齢者が「夜は歩けんわ」と昼間の企画をご希望されたことから、平日の昼間に年3回ほど開催しています。



みんなでほっこり

1回は軽食のお茶会、あとの2回は午後1時から3時までのお菓子と好きな飲み物で楽しいお茶時間を過ごしていっしょにやります。

④ 出張おいでん キッチン丸

2019年よりもう一つの子ども食堂、キッチン丸を月に1度、土曜か日曜のお昼ごはんの時間に開催しています。こちらは、「岡崎市の地域交流センターよりなん」の調理室をお借りしています。子どもと一緒にクッキングするスタイルです。部屋の定員もありますので事前予約が必要です。

こちらは、コロナ禍のため、今は子どもが調理することをやめて、スタッフが作って食事を食べる、という形になっています。



リンゴのうさぎ切りに挑戦して、サラダの盛り付け

●コロナ仕様で…

おいでん家も途中やむなくお休みしましたが、時間交代制で密回避の食事、スタッフ数制限、マスク消毒手洗いの徹底などの形で再開しました。

②と③の活動はコロナ禍のため、中止しています。

⑤ ラブ♡フードおいでん

2020年、おかざき子ども食堂・みんなの食堂連絡協議会で承認された、市と連携するフードパントリー活動を始めました。

年に数回ですが、市内6か所の場所で支援食材の配布をしています。

※わーく(P.14 紹介)への支援品を分ける拠点となっています。横のつながりも大事にしたいと思います。

おかざき子ども食堂・みんなの食堂連絡協議会

“ワークル” | 岡崎市

●設立年月日
2019年11月29日

●会員
岡崎市内の志を同じくする子ども食堂・みんなの食堂

●協力
岡崎市社会福祉協議会

●基本の会議
春の総会と秋の例会

●日頃の活動
支援品や思いの分かち合い、フードパントリー活動

仲間で力を集めて

2019年11月市内の志を同じくする仲間でおかざき子ども食堂・みんなの食堂連絡協議会“ワークル”を立ち上げました。悩みや喜び、ご寄付の品を分かち合い、励まし合っています。岡崎市社会福祉協議会に事務などの補助をしていただき、無理のない形で運営しています。

会員(2021年2月現在)

「十楽子ども食堂」、「おいでん家」、「ココカラ」、「友愛みんなの食堂」、「えほんしょくどう どうぞの店」、「友遊夕のYou」、「まめっ子」、「いちほし小町」、「キッチン丸」の8団体9食堂です。

中心軸はそれぞれの食堂の活動

……それにプラスして

それぞれの団体で日頃気になる家庭や、母子寮などへ、食堂に頂いた食材をおすそ分けしていました。それとともに、岡崎市の担当窓口と連携して、必要な家庭へのおすそ分けすることになりました。実働団体としておいでん家が担当しています。



頂いた山盛りジャガイモと玉ねぎ



玉ねぎとジャガイモの仕上げ

行事の協力依頼 カレーライス作り

2020年10月10日市内の竜美丘会館大ホールにて、岡崎東ロータリークラブの主催で、NPO法人豊島区子育てWAKUWAKUネットワーク理事長 栗林知絵子氏の講演会を中心にした、子ども食堂支援の輪を広げるための催しが行われました。



会員のほとんどは会場で講演をお聴きしましたが、各食堂から参加の5人のスタッフは、厨房で100人分のカレーライス作りをしました。楽しいつながりのひと時となりました。

また、岡崎東ロータリークラブから、ワークルに多くの物品のご寄付を頂きました。

ワークルのもう一つの願い

子ども食堂・みんなの食堂が、地域に増えることを願っています。



令和2年度「子どもの居場所づくり応援事業」実施報告書

1 子どもの居場所づくり応援事業について

愛知県社会福祉協議会では、令和元年度から、愛知県の補助事業として、「子どもの居場所づくり応援事業」を実施し、2年目となりました。

子ども食堂は、全国に広がっており、NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえの令和2年12月調査発表によると、子ども食堂は、コロナ禍においても増加し、全国に少なくとも4,960か所あり、昨年から1,242か所、割合として33%増加しています。

愛知県においても、子ども食堂(愛知県調査)は、平成29年の56か所から、令和元年は140か所、令和2年は175か所と年々増えており、各地域で取組が広がっています。

2 事業の内容

(1) 「子どもの居場所づくり推進会議」の運営、検討部会の開催

事業の中核となるのが、「子どもの居場所づくり推進会議」(以下、推進会議)です。

昨年度開催した推進会議で協議した結果、①資金と食材の確保、②地域との連携、③場所の確保、④人材の確保、⑤リスク管理が課題となりました。

とりわけ、①の食材の確保については、食材を安定的に確保した上で、いかに必要とする人に届けられるのか、物流面での体制の構築が課題となっていることから、本年度は、新たに、物流会社を母体とするNPO法人にも参画いただきました。推進会議では、それぞれの分野や組織の垣根を越えて、連携・共同し、子どもの居場所づくりのための、具体的方策を検討しました。

(推進会議要領 → P.20 推進会議委員名簿 → P.21)

また、専門部会として、県内3地区で、検討部会を開催し、地域の状況の把握と課題の検討を行いました。検討部会には、各地区の市町村社協職員にも呼びかけ、推進会議で取組の重要課題となっている、食材の安定的な確保及び子ども食堂への供給方法について検討を行うと共に、支援者としての日ごろの思いなどを意見交換していただきました。



推進会議

推進会議	2回開催	検討部会	3回開催
第1回	10月12日(月)	尾張地区(名古屋市東区)	10月19日(月)
第2回	2月9日(火)	三河地区(豊橋市)	11月6日(金)
		知多地区(武豊町)	12月17日(木)

●協議概要

第1回の推進会議では、昨年度の協議内容に引き続き、子ども食堂における課題解決に向け、各委員が自分たちの組織で取り組むことができる協力策の実施状況、その効果や課題、今後の予定等について報告いただきました。委員の中で、子ども食堂に取り組んでいる法人では、コロナ禍で子ども食堂が開催できない中、食材等の配布を行うフードパントリーを行ったところ、利用者がとても増えた、という意見がありました。また、あいち子ども食堂ネットワークの調査によると、コロナ禍においても、お弁当や食材配布等何らかの活動をしているところも多く、そのような中で企業等から多くの物資の援助もあり、コロナ禍において新たなつながり、連携が前進した、との意見もありました。

重点課題である「食材の確保」については、本年度から新たに委員となった物流会社を母体とするNPO法人の協力のもと、食材の物流ネットワークを整備し、子ども食堂が身近な場所(=地域拠点)で食材の提供を受けられるシステムの構築に向けて、検討を行いました。

【地域拠点のイメージ】

食材の受入れ：フードバンクから配送されてきた食材を受入れることができる
 スペースの確保：常温保存が可能な食材が置ける畳1～2畳程度のスペースがある
 (可能であれば)NPO法人が貸与する小型の冷凍冷蔵庫を設置できる
 食材の配布：近隣の子ども食堂が受取りに来る際に、食材を手渡すことができる人物がいる
 ※地域拠点としては、市町村社協、NPO法人(子ども食堂運営団体含む)、中核的な子ども食堂等を想定

3地区での検討部会では、本システムの要とも言える地域拠点の設置に向け、市町村社協の職員にも参加いただき、市町村社協が地域拠点になりうるか、どのような協力であれば可能か等、意見を聴取しました。多くの市町村社協では、行政から会館等の指定管理を受託していることから、行政の許可を得られないことには難しい、との意見が多数でした。また、その他、地域拠点となれる可能性のある団体や子ども食堂などの情報について意見交換を行いました。

第2回の推進会議では、引き続き、各委員の協力策の取組状況、その効果や課題、また今後の予定等の情報共有を行いました。

また、本システムについて、検討部会での協議を踏まえ、情報共有を図りました。今後、地域拠点の設置に向け、地域拠点の候補地に実際に赴き、働きかけを行っていく方針を確認したほか、新たな意見として、地域拠点を広く募ってはどうか、との提案もありました。次年度以降も引き続き、本システムの構築に向け、取り組んでいきたいと考えています。(寄附食材配送システムのイメージ図 → P.18, 19)

(2) 子ども食堂支援者及び開設準備研修会の開催

身近な地域で、子ども食堂をこれから始める方や、子ども食堂を運営する方、地域の福祉活動を支援する関係機関をつなぎ、子ども食堂を地域に定着させ広げていくことを目的に、県内3地区で開催しました(検討部会と同日の開催)。知多地区の会場となった武豊町では、現在、子ども食堂が開設されていませんが、研修会当日は、行政、民生委員、社会福祉協議会、ボランティアグループの関係者の方々が多数参加され、今後、武豊町内での子ども食堂の立上げに期待が高まります。

尾張地区(名古屋市東区) 令和2年10月19日(月) 参加者:48名	●講 義:『「食」がつなぐ子ども食堂 みんなの居場所』 あいち子ども食堂ネットワーク 共同代表 子どもの居場所づくり推進会議 副委員長 杉崎伊津子 氏 ●活動報告:『コロナに負けない ちくさこども食堂』 ちくさ子ども食堂 副代表 あいち子ども食堂ネットワーク 事務局長 伊藤正巳 氏
三河地区(豊橋市) 令和2年11月6日(金) 参加者:39名	●講 義:『「食」がつなぐ子ども食堂 みんなの居場所』 あいち子ども食堂ネットワーク 共同代表 子どもの居場所づくり推進会議 副委員長 杉崎伊津子 氏 ●活動報告:『ちいきカフェたけのこ活動報告 開設から現在まで』 ちいきカフェたけのこ 萩原久美子 氏
知多地区(武豊町) 令和2年12月17日(木) 参加者:49名	●講 義:『「食」がつなぐ子ども食堂 みんなの居場所』 あいち子ども食堂ネットワーク 共同代表 子どもの居場所づくり推進会議 副委員長 杉崎伊津子 氏 ●活動報告:『地域の中のもう一つの居場所づくり』 緑いきいきルーム 代表 渥美隆 氏

●子ども食堂支援者及び開設準備研修会 3会場 参加者状況

	実践者	準備中	社協	行政	その他	合計
尾張地区(10/19)	14	17	13	2	2	48
三河地区(11/6)	11	6	7	6	9	39
知多地区(12/17)	7	9	10	7	16	49
合計	32	32	30	15	27	136



研修会

～参加者の意見～

- 困った人探しをするのではなく、誰でも来られるような居場所にする。たまたま困難さを察することができたら対応する、という考え方がとてもわかりやすく、活動の心構えとしていきたいです。
- 初めて子ども食堂やパントリーについて聞かせていただきました。何より賛同してくださる方や仲間づくりと継続が大切だと思いました。
- コロナ禍でどのように子ども食堂を立ち上げればよいか、とても参考になりました。コロナに対して正しい知識の共有と、対策を念入りに検討していくことが大切であることを学びました。
- 子ども食堂の具体的な進め方を詳しく説明いただきました。調整内容や場所等の改善のヒントをもらうことができました。
- 啓発方法や食材の調達方法など詳細に知ることができ、今後子ども食堂を立ち上げる際の参考になりました。

(3) 「子どもの居場所応援プラザ」の設置・運営

子ども食堂を開設・運営する上での様々な相談に応じるため、令和元年7月から、専門の相談窓口として、「子どもの居場所応援プラザ」を県社協ボランティアセンター内に設置し、随時、相談を受け付けています。

プラザの開設から1年以上が経過し、認知度も増してきており、開庁日で平均すると概ね日に1件の相談を受付けています。

●相談の一例

- ・子ども食堂を始めたい。資金や物資の援助はあるか。情報が欲しい。
- ・子ども食堂に缶詰を寄付したい。どうしたらいいか。
- ・子ども食堂や学習支援に関心がある。研修会の予定等教えて欲しい。

●プラザ相談件数 240件

(R2.4月～R3.2月末)

内訳	件数
子ども食堂	153
学習支援	64
両方	12
その他	11
合計	240

●設置場所

愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター事務局内
 名古屋市東区白壁一丁目50番地 愛知県社会福祉協議会 2階
 TEL:052-212-5504 FAX:052-212-5503 E-mail:info@aichivc.jp

(4) 情報発信

●ホームページによる情報発信

愛知県社協ボランティアセンターのホームページ内に子ども食堂の情報を掲載しています。

●2020年版愛知県「子ども食堂マップ」の作成

愛知県の令和2年10月の調査を基に、「子ども食堂マップ」を作成しました。このマップでは、県内で活動している子ども食堂のうち、掲載を御承諾いただいた子ども食堂の情報を集めています。随時追加も行っていきます。(子ども食堂マップ紹介 → P.22)

※本会ボランティアセンターホームページから、ダウンロードできます。→ <http://aichivc.jp>

●機関紙「ぶらざ通信」の発行

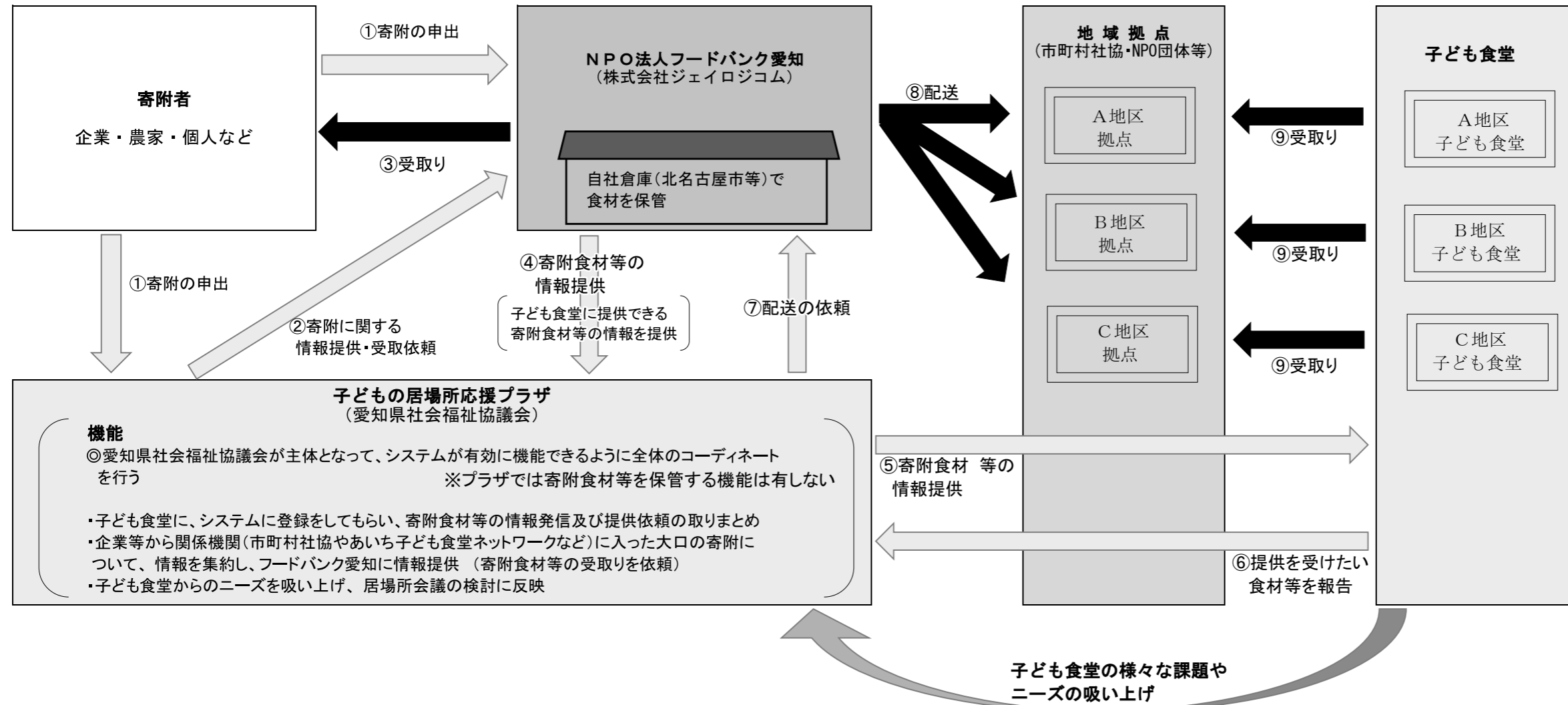
子どもの居場所づくりに関わる活動や情報を広く知ってもらうため、子ども食堂や子どもの学習支援などの取組を紹介する機関紙を、PDFファイル形式で発行しています。(ぶらざ通信紹介 → P.22)

3 今後に向けて

引き続き、推進会議において、「①資金と食材の確保、②地域との連携、③場所の確保、④人材の確保、⑤リスク管理」の5つの課題解決に向け、取り組んでいきます。特に、子ども食堂における食材の確保については、県内の各地域に食材を一時的に保管できる拠点を設け、子ども食堂が身近な地域でフードバンク等から提供される食材を活用することができるシステムを整備・構築することが必要であると考えています。食材等の支援があれば、財源の少ない子ども食堂が、継続して運営していくことができる助けになります。子ども食堂の運営を支援し、地域子どもたちを誰一人取りこぼさずに、地域で子どもたちを育てていくことができるよう、事業に取り組んでまいります。

寄附食材等配送システムの構築について(イメージ)

昨年度の子どもの居場所づくり推進会議で課題となった「資金と食材の確保」について、物流ネットワークを構築し、子ども食堂が身近な場所で寄附食材等を確保できるシステムを構築する。



☆最終的な目標

寄附食材の提供を希望する子ども食堂を把握し、身近な地域拠点まで配送するシステムを構築し、フードバンク等から食材の提供が受けられる仕組みをつくとともに、「子どもの居場所応援プラザ」が子ども食堂とのネットワークを構築し、様々な課題やニーズを吸い上げて、子どもの居場所推進会議での検討につなげる。

- 課題—**
- 1 食材を受取りに来られる子ども食堂は、尾張部など近隣の子ども食堂に限られてしまう
 - 2 配送に関して、すべての子ども食堂に対して個別対応することが困難である
 - 3 広く子ども食堂に情報を発信するための機能を充実させる必要がある

- 課題に対する対応策—**
- 1 地域拠点を各地域に設置することで、県内広域の子ども食堂が寄附食材の提供を受けられるようになる
 - 2 地域拠点を設置することで、までの配送となり、負担が軽減される
 - 3 寄附食材の提供を受けるために、子ども食堂にシステムに登録してもらい(市町等を子ども食堂に登録を呼び掛ける)

- 今後の検討事項—**
- 1 地域拠点の開拓(市町村社協・NPO団体等への協力依頼)
 - 2 地域拠点に求められる機能(どの程度であれば対応が可能か)
 - 3 スムーズな情報発信・受信の仕組みづくり(様式等)
 - 4 配送の頻度等、きめ細やかな対応

子どもの居場所づくり推進会議 要 領

1 目 的

本会議は、分野や組織の垣根を越えた連携・協働のしくみづくりとして、ネットワーク組織を構築し、子どもの居場所づくりのための具体的方策について検討・実践することを目的とする。

2 協議内容

本会議は、次の事項について協議する。

- (1) 子ども食堂の設置拡大・基盤強化に関する事
- (2) 子ども食堂の開設・運営についての研修会・交流会等に関する事
- (3) 子どもの学習・生活支援に関する事
- (4) 各市町村における相談支援体制の構築に関する事
- (5) その他、子どもの居場所づくりに関する必要な事項

3 委員の構成

- (1) 本会議の委員の定数は、21名以内とする。
- (2) 委員は、行政機関、社会福祉協議会、子ども食堂関係団体、民間支援団体・企業等の関係者及び学識経験者をもって構成する。

4 委員長及び副委員長

- (1) 本会議には、委員長、副委員長を置き、委員の互選により選出する。
- (2) 委員長は、本会議の議長を務める。
- (3) 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故のあるときは、その職務を代理する。

5 委員の任期

委員の任期は2年とし、欠員が生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 作業部会の設置

本会議には、必要に応じて作業部会を設置することができる。

7 事務局

本会議の事務局は、愛知県社会福祉協議会地域福祉部に置く。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年9月1日から施行する。

子どもの居場所づくり推進会議 委員名簿

任期：2019(平成31)年4月1日～2021(令和3)年3月31日

No.	役職	選出区分1	選出区分2	所 属	役職名	氏 名
1	委員長	学識経験者	大学教員	日本福祉大学 社会福祉学科 (愛知県子どもの貧困対策検討会議構成員)	准教授	中村強士
2	副委員長	子ども食堂関係者	あいち子ども食堂 ネットワーク	あいち子ども食堂ネットワーク	共同代表	杉崎伊津子
3	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (西尾張)	一宮市社会福祉協議会	主事	鈴木敬佑
4	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (東尾張)	日進市社会福祉協議会	主任	伊藤優子
5	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (知多)	武豊町社会福祉協議会	次長	藤田綾乃
6	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (西三河)	岡崎市社会福祉協議会	主任	高柳りえ
7	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (東三河)	豊橋市社会福祉協議会	主任	森下安明
8	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (名古屋)	名古屋市社会福祉協議会	次長	染野徳一
9	委員	民間支援団体・企業等	NPO(学習支援)	NPO法人アスクネット	常務理事	城取洋二
10	委員	民間支援団体・企業等	NPO(ボランティア)	NPO法人ボラみみより情報局	代表理事	織田元樹
11	委員	民間支援団体・企業等	NPO(食材・物流支援)	NPO法人フードバンク愛知	理事長	木原賢治
12	委員	民間支援団体・企業等	県内社会福祉法人 (尾張)	社会福祉法人ひまわり福祉会	施設長	成瀬史宣
13	委員	民間支援団体・企業等	県内社会福祉法人 (三河)	社会福祉法人和敬会	理事長	太田一平
14	委員	民間支援団体・企業等	共同募金	愛知県共同募金会	企画調整 課長	榊原英夫
15	委員	民間支援団体・企業等	農業協同組合	JA愛知中央会	営農・くらし 支援部長	村上光男
16	委員	民間支援団体・企業等	生活協同組合	生活協同組合コープあいち	常務理事	箕浦明海
17	委員	民間支援団体・企業等	協力企業(流通業)	株式会社セブン-イレブンジャパン (日本フランチャイズチェーン協会会員企業)	東海ゾーン総務 マネージャー	秋元雄一郎
18	委員	民間支援団体・企業等	民生児童委員	愛知県民生児童委員会愛知委員会 活動研修研究部会	元主任児童 委員	東嶋とも子
19	委員	行政機関	市町村代表	豊田市福祉部福祉総合相談課	課長	中川さゆり
20	委員	行政機関	教育委員会	愛知県教育委員会生涯学習課	課長	大道伊津栄
21	委員	行政機関	愛知県	愛知県福祉局福祉部地域福祉課	課長	緒方武俊



● 2020年版子ども食堂マップ ●



● ぶらざ通信2021.3月号 ●



子どもの居場所 応援プラザ

相談専門窓口

地域における子どもの居場所として、子ども食堂の取組が広がっています。そこで、子ども食堂を開業・運営するうえでの、様々な相談に応じるため、専門の窓口を開設しました。

あなたも「子どもの居場所」に関わってみませんか



子ども食堂を
やってみたい。



どんな活動を
しているの？



余った時間で
何かお手伝い
してみたい。

応援プラザ 設置場所

愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター内
 名古屋市東区白壁1丁目50番地 愛知県社会福祉会館2階

TEL 052-212-5504 FAX 052-212-5505 Eメール info@aichivc.jp

※本事業は、愛知県の補助を受け、愛知県社会福祉協議会が実施しています。